

GRIPS - 米国大使館共催
エネルギーの未来を考える

GRIPS-U.S. Embassy Joint Workshop

Student Workshop on Energy Futures

日時：2013年5月12日（日）13:00～17:30

場所：政策研究大学院大学 会議室1AB

東京都港区六本木7-22-1

アクセス詳細 <http://www.grips.ac.jp/jp/about/access/>



協力：STeLA-Japan

TOMODACHI Initiative

株式会社東芝



開催趣旨：

我々の日常生活に欠かせないエネルギー。地球温暖化や東日本大震災等を背景に、世界中でエネルギーのあり方についての議論がなされています。日米間でも、エネルギーの持続可能性やクリーンエネルギー等に関する技術協力が進められています。

本ワークショップでは、未来を担う学生達がエネルギーの将来について、米国の専門家を交えたディスカッションと英語でのグループワークに取り組みます。これらを通じて、様々な視点からエネルギーを巡る問題について考えるとともに、国際社会で求められるリーダーシップとコミュニケーション能力を養うことを目指します。

参加対象：高校生、大学生、大学院生（専攻分野不問）

※定員（50名程度）になり次第締め切ります。

参加費：無料

言語：英語（原則）

申し込み：登録フォーム (<http://goo.gl/LUfHG>)
からお申し込みください。



問い合わせ：政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策プログラム（GIST）

Email: gist-ml@grips.ac.jp



米国専門家 略歴：

Dr. Paul Komor

コロラド大学ボルダー校Renewable and Sustainable Energy Institute (RASEI) (米国コロラド州) のエネルギー教育ディレクター兼環境学プログラム講師。RASEIではコロラド大学ボルダー校をエネルギー教育におけるリーダー的存在とすべく尽力するとともに、再生可能エネルギーに関する活発な研究プログラムも開講。スタンフォード大学で修士号・博士号を取得、米国議会技術評価局 (U.S. Congress' Office of Technology Assessment (OTA)) での勤務や、プリンストン大学公共政策大学院(Woodrow Wilson School)で教鞭を取った経験を持つ。IPCCの第2次アセスメント報告書作成に関わり、2007年のアル・ゴア米元副大統領とIPCCのノーベル平和賞受賞へも貢献。



Dr. Alan K. Meier

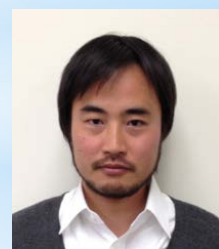
ローレンス・バークレー国立研究所シニア・サイエンティスト兼カリフォルニア大学デイビス校Energy Efficacy Center 教員兼研究員。カリフォルニア大学ロサンゼルス校でChemistry & Economics 修士号及びEnergy and Resource博士号を取得。早稲田大学に1年間滞在した経験を持ち、国際エネルギー機関 (パリ) にも4年間勤務。主な研究分野は、エネルギーの有益なサービスへの転換方策とより効率的なエネルギーの活用機会。



Mr. Ryohei Hinokuma

カリフォルニア大学デイビス校でEnvironmental Biology and Management学士号、Transportation Technology and Policy修士号取得。日本貿易振興機構 (JETRO) ロサンゼルス支部の環境アドバイザーを経て、現在、ダイキンUSコーポレーション HVAC*リサーチ・エンジニアとして勤務。

*HVAC : Heating, Ventilation, Air Conditioning (暖房・換気・空調)



プログラム(暫定)：

- 13:00-13:20 開会・趣旨説明
- 13:20-14:20 専門家による講演
- 14:20-14:30 休憩
- 14:30-14:45 事前説明：グループワークのコツ
- 14:45-16:35 グループワーク
- 16:35-17:20 リフレクション・専門家等からのコメント
- 17:20-17:30 閉会

※詳細は後日、参加者の方々にご連絡します。